

損保ジャパン東郷青児美術館

演色性の高い高性能 LED を「セガンティーニ展」から導入

損保ジャパン東郷青児美術館は、節電対策が求められている社会状況を鑑み、作品保護と高い演色性を備えた、美術館用に開発された高性能 LED を展示室に導入いたします。

LED 照明は、消費電力を削減し、発熱量・紫外線量も低く、美術作品を保護する照明として導入が検討されていましたが、演色性に課題がありました。今回導入する最新型の LED スポットライトは、4色（赤緑青白）の LED をブレンドすることで、自然光に近い高演色度の光を創り出し、作品本来の色を表現することができるようになりました。

これまでのスポットライトは 100W のハロゲン照明でしたが、発熱量が多く、消費電力と作品保護の観点からも万全の照明ではありませんでした。今回の LED スポットライトの消費電力は 22W(LED 光源)で、消費電力、発熱量、紫外線量を低くすることが可能となりました。

清澄な空気とアルプスの山々に魅せられたセガンティーニの作品が、色むらのない透明感のある LED スポットライトで、隅々まで透き通るように見ることができます。

この LED スポットライトを導入した美術館は、千葉市美術館、練馬区立美術館に続き全国で 3 館目となります。

【LED 導入のメリット】

- 1) 従来のハロゲン照明と比べ、消費電力（電気代）、CO2 排出量が 1/4
- 2) 紫外線がほとんどなく、展示物の退色や変色を抑える
- 3) 放射熱(発熱量)が少なく、展示作品の温度上昇を抑える
- 4) 寿命が 4 万時間で、ハロゲン照明の 10 倍以上